

平成29年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472000932	事業の開始年月日	平成16年6月1日
		指定年月日	平成28年6月1日
法人名	有限会社 ヒューマンライフサービス		
事業所名	グループホーム 悠悠苑平塚事業所		
所在地	(〒254-0012)		
	平塚市大神2108-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成30年2月25日	評価結果 市町村受理日	平成30年5月29日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>全職員がご利用者様・ご家族様に選んで良かったと思って頂けるグループホームを目指しています。ご利用者様の目線で、待つ介護・寄り添う介護を行い、そこから見えて来るニーズを職員間で共有し、同じサービスを提供する事に努めています。ご利用者様に安心・安全、笑顔のある暮らしを提供出来る様、チームの一員として何をすべきか、自らの目標を掲げ、研修等に積極的に参加し、ケアの向上に努めます。</p> <p>また、利用者様が、住み慣れた地域で安心して暮らせる様、また、地域の一員として繋がりが持てる様、地域行事に参加させて頂く、地域の方々に苑行事に参加して頂く、地域ボランティアの受け入れ等、地域との連携を深め、地域の中に自然に存在する「お年寄りの家」を目指します。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル 9階		
訪問調査日	平成30年3月19日	評価機関 評価決定日	平成30年5月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、JR東海道線平塚駅からバスで約20分、バス停から徒歩5分程の住宅地に立地している。近隣には、由緒ある神社、大きな敷地の住宅、養蜂農家、スーパーマーケットなどがあり、間近に丹沢の山塊が臨める地域である。建物は、軽量鉄骨造2階建て、各階に1ユニットずつ、2ユニット18名定員の事業所である。</p> <p>【理念の実践】 開設当初からの事業所理念「ゆったりと、心穏やかに、尊厳を大切に、笑顔あふれる日々」と、理念実践のため、職員が話し合って毎年策定している「介護目標」「事業所目標」を、事務室、廊下に掲示している。特に事業所理念は、名札の裏面に記載し、毎朝の申し送り時に唱和している。利用者には「笑顔あふれる日々」を送っていただくために、職員も笑顔を絶やさないケアをしている。利用者は、職員と一緒に調理や掃除の手伝い、園芸活動など出来ることをして、ゆったり、心穏やかな日々を過ごしている。</p> <p>【利用者本位の生活を工夫】 玄関やユニット出入口は施錠せず、居室の窓は自由に大きく開閉できるなど開放的な事業所となっている。利用者本位の生活のため、日常会話や態度、表情を見て意向の把握に努めている。民謡ボランティアの来訪、幼稚園児との交流などで、利用者の表情が緩む時は意向を把握する機会となっている。入浴は、週2回を基本として声掛けをしているが、利用者の意向を尊重して入浴時間は柔軟に対応している。排泄介助も、排泄パターンを把握してタイミングをみて誘導している。</p> <p>【地域との交流】 事業所では、地域の盆踊り、避難訓練、神社祭り、公民館祭り、清掃活動など地域との交流に努め、地域での認知症理解の取り組みを進めている。家族からは「地域の方が温かい」と感謝の声が寄せられている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム苑平塚事業所
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝の申し送り時に復唱している。また、名札の裏に記載し、いつも確認できるよう配慮している。職員同志で、常日頃から理念に基づき、笑顔で穏やかに過ごせるよう実践に努めている。	理念は、開設時にオープニングスタッフが話し合って作成したものである。事務室、廊下に掲示、職員名札裏に印刷し、毎朝の申し送り時に唱和して共有している。また、理念実践のため、職員が話し合って、毎年「介護目標」「事業所目標」を作成している。理念にある「笑顔あふれる日々」のために、職員は、明るい笑顔でのケアに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物・散歩時等でお互い挨拶を交わしている。公民館行事・自治会行事・子供みまもり隊等、積極的に参加させて頂いている。また、近隣の幼稚園・保育園・学童・中学校との交流・看護学生の実習の受け入れをしている。	自治会に加入し、地域の盆踊り、避難訓練、寄木神社祭り、大掃除、どんど焼き、公民館祭りに参加している。近隣幼稚園との交流会や民謡ボランティア等の来訪がある。事業所の悠悠祭りには、中学生がボランティアとして来訪している。買物や散歩で、地域の方と顔なじみの関係ができ、挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	道路に面して入りやすい併設の居宅支援事業所を窓口にして、地域の方が見学・遊びに来られ案内している。地域ボランティアの受け入れ・地域行事への参加を通して、支援を受けている認知症の方の笑顔を見て頂き理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度リビングにて開催、活動報告をしている。構成員と意見交換を行い、災害時の連携・地域との連携等を検討、サービス向上に努めている。	2カ月1回開催しており、自治会長、民生委員、地区社協役員、地域包括支援センター職員、家族が参加している。入居者情報、行事、事故対応、職員異動の報告をしている。地域包括支援センター職員から地域情報として、コグニサイズプログラム、リフレッシュラザ、くすの木体操（市の健康体操）等の健康増進のための情報提供があつ	

				た。また、災害対策についても意見交換している。	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>平塚市介護保険課より派遣されている相談員を月1回受け入れている。</p> <p>2か月に1回、社会福祉協議会を事務局とした、グループホーム連絡会に参加している（介護保険課の方同席）</p>	<p>市の担当課に要介護認定更新申請手続きの代行をしている。市派遣の介護相談員が毎月来訪し、利用者の話を聴いている。市の担当者も参加しているグループホーム連絡会に参加している。</p>	<p>市のグループホーム連絡会に参加されていますが出席回数が少ないようです。介護保険制度の動向や人材確保策等について、行政や他事業所との情報共有のためにも、積極的に参加されることを期待します。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行なって、実践している。日中は、玄関を開放し、自由に入出入りしている。緊急やむおえない時、一時的に施錠を行う事があるが速やかに開放している。	身体拘束に関するマニュアルに基づき、拘束の無い介護に努めている。玄関やユニット入り口に施錠はなく、開放的な事業所である。利用者の生活は安定しており、不意の外出は見られない。職員は、年に1回身体拘束点検シートによる自己チェックを行い、研修を受講している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、自己点検シートで予習・確認、研修を行っている。精神的虐待にならない様、ユニット会議・カンファレンス等で話し合い、声掛けに注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1階で日常生活自立支援事業（1名）、成年後見人制度（1名）を活用しているが、すべての職員が理解するには至っていない。今後研修を行い、個々の必要性を検討して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、ご家族・ご本人に説明し、理解・納得を図っている。改定等の際は、十分な説明を行い同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・行事参加時等、意見交換を行っている。平塚市介護相談員を月1回受け入れ、ご利用者様の意見・要望を引き出して頂いている。意見箱に設置・苦情相談窓口を玄関などに表示し、いつでも申し出が出来る旨を伝えている。	家族会は、クリスマス会を兼ねて行っている。意見箱を玄関に設置している。外へ出る機会を増やして欲しいとの要望があり、定期的に事業所外回りの掃除を兼ね、外気浴ができる時間を作っている。家族より「認知症にあたたかい地域でありがたい」と感謝の言葉があった。家族に、協力して地域交流を進めたい、とお願いをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者がユニット会議に参加する機会を設けている。管理者は、自己評価を配布、個々面接等を行って意見や提案を聞いている。ユニット会議にて於いて、管理者会議の報告、意見や提案の把握に努めている。代表者は、職員に対して、意向調査表を配布、意見や提案を聴く機会を設け、反映している。	ユニット会議を毎月1回実施しており、法人の管理者会議の報告と意見交換をしている。管理者と職員の個人面談の機会や日常業務の中でも職員から意見、要望を聞いている。身体介護から生活支援中心の業務に変更して欲しいとの職員の申し出に対応している。職員不足に関する要望に対応して、人材確保に努めている。	
12	○	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、個々面接等において職員から意見等を聞き、代表者に管理者会議等で要望・意見等、報告し、給与水準等、労働条件・職場環境等、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。また、ユニット会議で研修報告、介護技術等、研修の振り返りを行って実践に役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市のグループホーム連絡会の定例会・事例発表会。地域介護システム会議主催の研修会に参加してネットワークづくりやサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントにおいて、ご本人の要望に耳を傾け、寄り添い話を聞く場を常に設け、共感し、安心を確保するための関係づくりを初期プランにあげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期プランを作成する上で、ご家族の希望を十分取り入れる事が出来る様、努めている。面会時や電話により、ご家族等の不安や要望に耳を傾ける機会を作り関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族等の要望を把握し、アセスメントを行い、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を行う事で、役割を持って生活して頂き、協力し合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の要望等、連絡したり、面会に来て頂く、行事に参加して頂く等、共に支えていく関係を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・知人への電話・手紙などで交流している。面会時は、くつろいで頂ける環境を提供出来る様、努めている。馴染みの美容院へ出掛けたり、地域行事への参加、近隣のスーパーでの買い物等で、馴染みの人と交流出来るよう支援している。	毎月、友人の訪問がある利用者がある。訪問者のために、椅子とテーブルを購入し、部屋に置いている。友人との電話、手紙、年賀状のやりとりを支援している。入居前からの馴染みの美容院に出掛けている利用者も複数名いる。家族と最良の歌手の歌謡ショーに出かけている利用者もいる。園芸が得意な利用者は、キャベツやそら豆を栽培している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に仲介の立場で接している。出来るだけリビングに来て頂き、体操等に参加して頂いている。レクリエーションへの参加を通して互いの関係づくりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	写真・色紙を贈ったり、管理者・職員が、面会に行ったり電話等で経過を伺うなどして関係を断ち切らない取組を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の希望に添える様、会話の中から意向の把握に努めている。好きな事・趣味等の把握に努めている。また、介護相談員に思い・意向を引出して頂いている。	日常会話の中で利用者の意向を把握し、職員間で情報共有するように努めている。把握の困難な利用者には、ボランティアの来訪時や幼稚園児との交流の機会を利用して、表情や態度から意向をくみ取るようにしている。普段、表情の乏しい利用者が、民謡ボランティアの来訪があると、歌に合わせて踊っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・ご利用者様との会話から、これまでの暮らしの把握に努め、その人らしい過ごし方の把握に努めている。馴染みの家具を配置する・好きな食べ物の把握等行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの対応・会話等、生活の中で、現状の把握に努めている。変化等が見られた場合は、カンファレンス・ユニット会議・申し送り等で情報交換等を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の担当者を決め、より細かい観察に努めている。アセスメントを行い、ご本人・ご家族の希望を取り入れ、ケアカンファレンスは、全員で行い介護計画を作成している。	入居時に1カ月の暫定の介護計画を作成し、その後は6カ月に1回、モニタリングとカンファレンスでの意見交換をして、計画の見直しをしている。医療情報は、主治医の往診時記録を計画作成に反映している。介護記録は介護計画に沿った内容となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録・生活チェック表、申し送り等で情報を共有し、実践・介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービス・有料老人ホームとの交流、他ユニットとの交流等、必要に応じて対応し支援の幅を広げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、保育園・幼稚園等との交流、悠悠まつりの開催等、地域との交流を図っている。また、地域のボランティアによる民謡の会を隔月で開催している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医療により適切な医療を受けられるよう支援している。状態を医師に報告・状況に応じご家族との連携を取っている。また、緊急時においても、速やかに対応して頂いている。	入居前からのかかりつけ医を継続受診している利用者がいる。協力医の往診は、内科が月2回、神経内科が月1回、歯科は毎週ある。眼科、耳鼻科、皮膚科に家族対応を原則として通院している。法人職員である看護師が月2回健康管理に当たっている。訪問マッサージ師の利用もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師と連携を取り合い支援している。月2回、看護師の出勤があり、情報を伝えて相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、サマリーを作成し情報交換を行っている。また、退院指導等に同席させて頂く等、病院側から情報を提供して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についてのご家族・主治医・管理者で話し合い看取りを行う場合は、同意書を頂いている。主治医をリーダーに、ご家族との連携を密にし、管理者・看護師を中心にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に、終末期の在り方について「重度化対応指針」に基づいて説明している。終末期には、医師や家族と話し合い、家族の意向に基づき、事業所での対応が可能であれば看取り介護をしている。これまでに看取りを実施した実績がある。職員は、毎年、看取り介護の研修をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、研修を行っている。見やすい場所に「緊急手順表」が貼ってあり、緊急時に活用している。 定期的な訓練を行っている者もいるが、全ての職員が実践力を身に付けているには、至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	苑内での避難訓練を年2回、実施し、夜間を想定した訓練・風水害時の訓練を行っている。地域との協力体制を運営推進会議の際、話し合っている。近隣者へ避難訓練の参加を呼び掛けている。災害対策委員会を中心に、誘導方法を身に付け、防災意識を高めている。	防災避難訓練は、年2回実施しており、うち1回は消防署立ち合いのもと、夜間想定で実施している。訓練実施の際は、近隣住民に案内をしている。消防署が実施する起震車で地震体験には学校帰りの子どもたちも参加している。地域での避難訓練には職員が参加している。災害備蓄は、非常食、飲料水とも職員分含め3日分あり、備蓄管理表で管理している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけない様な声かけを心掛けていますが、完全とは言えない。個々が認識する・職員間で注意し合う等、声掛けの工夫が必要と思われる。	入浴や特に排泄の声かけは、本人の羞恥心に配慮し、周りに聞こえないように耳元で話すようにしている。失禁で汚れた時は、トイレから直接脱衣室に行けるよう構造面の配慮がされている。入浴時は、希望があれば同性介助に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、ご本人の意思を引き出せるよう、自己決定できるよう努めているが、全ての職員が出来ているとは言えない、声掛けの工夫が必要と思われる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康管理・安全・安楽の確保に留意し、職員側の都合を優先するのではなく、ご利用者様のペースで生活出来る様、ユニット会議等で確認し合い、支援しているが、十分とは言えない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ、ご本人の希望に沿って、支援している。清潔保持が出来る様、声掛けの工夫をし、更衣の促し等を行っている。衣類を選んで着ている方もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いせずに声掛けを工夫し、ご利用者様と職員と一緒に準備・片付けを行っている。また、お礼の言葉を必ず掛け、やりがいに繋げている。	献立と食材は業者に依頼し、調理は職員が交代で行っている。利用者は下拵え、みそ汁の味付け、盛り付け、お茶入れ、下膳など出来ることを手伝っている。職員は、必要な方の食事介助、見守りをしながら、同じテーブルで同じ食事をしている。誕生日には希望により外食をしたり寿司の出前を取った	

				りしている。ボランティアが来訪する日には、一緒にリビングで焼きそばを作って楽しむことがある。また、その時の思い付きで、ファミリーレストランやコーヒーショップに出掛けることもある。	
--	--	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を表にまとめている。水分量の少ない方は、好みの飲み物を提供、夜間の水分補給等、一人ひとりの状態を把握、記録し、統一した支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守り・介助等、ご本人の力に応じた対応を行っている歯科医の訪問医療を受け、口腔管理を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を付け、一人ひとりの排泄能力・排泄パターンを把握している。必要に応じ、声掛け・誘導し、トイレで排泄出来る様、支援している。	排泄パターンを「排泄・巡視・体交チェック表」により把握し、タイミングを見て声かけしている。布パンツ使用の方が多い。昼はリハビリパンツで、夜間は睡眠優先でおむつ利用の方もいる。退院時にカテーテル留置であった方が、抜去してリハビリパンツ使用になった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳・乳製品を取り入れている。個々の状況に応じて、オリゴ糖を使用する・水分を多めに促す、運動・散歩の働きかけを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日・入浴時間を決めず、出来るだけ、希望に応じて入浴が出来る様、配慮している。拒否のある方には無理に勧めず、声掛けの工夫・タイミングに合わせ支援している。	入浴は週2回を基本としているが、身体が汚れた時は随時対応している。入浴を好まない時には、時間を変えたり職員を代えて対応したり、翌日の入浴となる場合もある。希望があれば同性介助をしている。好みのシャンプーを購入している利用者もいる。ゆず湯などで季節感を味わう工夫もされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思に任せている。意思を 表せない利用者には、様子観察をして、安心して眠れる様、必要に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカードックスにファイルし、一人一人の薬の目的や副作用を理解するよう努めている。薬剤師に随時相談・指導を受けられるようになっている。服薬チェック表を付け、薬の確認・服薬の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事への参加等、一人一人の力を活かした役割を持っている。行事・レクリエーション・音楽鑑賞・散歩・買い物等で気分転換を図っている。また、口腔体操等リードして下さる方、家庭菜園等積極的に取り組んでいる方がいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物・レクリエーション等で外へ出掛けられるよう支援に努めている。地域行事への参加等、ご家族会・運営推進会議・おたより等で協力を要請している。	利用者の体調等を見ながら散歩や近くのスーパーに買物に行っている。天気の良い日は敷地内の駐車場にベンチやテーブルを置いて、外気浴やお茶を楽しんでいる。同一法人運営の通所介護事業所の送迎車を借りて、月に1回程度、ドライブに出掛けている。地域の盆踊り、神社祭り、どんど焼き、公民館祭りに参加したり、初詣に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が必要とする物を聞き入れ一緒に買い物に行っている。お金は、職員が管理しているが、祭りの模擬店等、財布を持ち、ご本人が食べたい物を選び、お金を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人・友人・ご家族と電話をやり取りしたり、手紙のやり取りの支援を行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を行っている。温度・湿度は朝・夕、確認している。リビングのテーブルの位置等、状況に応じて工夫をしている。ご利用者様にとって不快や混乱を招かない様、刺激がない様、配慮しているが十分ではない。	感染症対策のため衛生管理に努め、数年間インフルエンザの発症はない。毎朝、廊下の手摺を消毒し、床はモップと掃除機で、トイレは次亜塩素酸ソーダ液で清掃している。加湿器の設置や濡れタオルで湿度管理をし、窓を開けて換気に努めている。廊下には、貼り絵などの制作物や行事写真が飾られている。また居室入口にはそれぞれマークとなる写真が掲示してあり、自室を分かりやすくする工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる場所、気の合った者同士が過ごせる場所等、ソファー・椅子・テーブル等で工夫している。外ベンチ等も活用している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、ご本人の好みの家具・品物をご本人・ご家族と相談しながら配置している。	居室のエアコン、換気扇、照明、クローゼットは備え付けられている。ベッド、カーテン、加湿器、ポータブルトイレ、タンス、テレビ、写真など馴染みの物が持ち込まれている。よく訪問する来客のために、椅子やテーブルを用意している居室もある。毎朝起床時に窓を開けて換気をし、清掃をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力に応じた寝具（ベット・サイドレール設置・布団・椅子）家具等の設置を行っている。			

事業所名	グループホーム苑平塚事業所
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝の申し送り時に復唱している。また、名札の裏に記載し、いつも確認できるよう配慮している。職員同志で、常日頃から理念に基づき、笑顔で穏やかに過ごせるよう実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物・散歩時等でお互い挨拶を交わしている。公民館行事・自治会行事・子供みまもり隊等、積極的に参加させてもらっている。また、近隣の幼稚園・保育園・学童・中学校との交流・看護学生の実習の受け入れをしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	道路に面して入りやすい併設の居宅支援事業所を窓口にして、地域の方が見学・遊びに来られ案内している。地域ボランティアの受け入れ・地域行事への参加を通して、支援を受けている認知症の方の笑顔を見て頂き理解を深めてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度リビングにて開催、活動報告をしている。構成員と意見交換を行い、災害時の連携・地域との連携等を検討、サービス向上に努めている。		

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平塚市介護保険課より派遣されている相談員を月1回受け入れている。2か月に1回、社会福祉協議会を事務局とした、グループホーム連絡会に参加している（介護保険課の方同席）		
---	---	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行なって、実践している。日中は、玄関を開放し、自由に出入りしている。緊急やむおえない時、一時的に施錠を行う事があるが速やかに開放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、自己点検シートで予習・確認、研修を行っている。精神的虐待にならない様、ユニット会議・カンファレンス等で話し合い、声掛けに注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1階で日常生活自立支援事業（1名）、成年後見人制度（1名）を活用しているが、すべての職員が理解するには至っていない。今後研修を行い、個々の必要性を検討して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、ご家族・ご本人に説明し、理解・納得を図っている。改定等の際は、十分な説明を行い同意書を頂いている。		

10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・行事参加時等、意見交換を行っている。平塚市介護相談員を月1回受け入れ、ご利用者様の意見・要望を引き出して頂いている。意見箱に設置・苦情相談窓口を玄関などに表示し、いつでも申し出が出来る旨を伝えている。		
----	---	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者がユニット会議に参加する機会を設けている。管理者は、自己評価を配布、個々面接等を行って意見や提案を聞いている。ユニット会議にて於いて、管理者会議の報告、意見や提案の把握に努めている。代表者は、職員に対して、意向調査表を配布、意見や提案を聴く機会を設け、反映している。		
12	○	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、個々面接等において職員から意見等を聞き、代表者に管理者会議等で要望・意見等、報告し、給与水準等、労働条件・職場環境等、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。また、ユニット会議で研修報告、介護技術等、研修の振り返りを行って実践に役立てている。		

14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市のグループホーム連絡会の定例会・事例発表会。地域介護システム会議主催の研修会に参加してネットワークづくりやサービスの質の向上に努めている。		
自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントにおいて、ご本人の要望に耳を傾け、寄り添い話を聞く場を常に設け、共感し、安心を確保するための関係づくりを初期プランにあげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期プランを作成する上で、ご家族の希望を十分取り入れる事が出来る様、努めている。面会時や電話により、ご家族等の不安や要望に耳を傾ける機会を作り関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族等の要望を把握し、アセスメントを行い、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を行う事で、役割を持って生活して頂き、協力し合える関係を築けるよう努めている。		

19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の要望等、連絡したり、面会に来て頂く、行事に参加して頂く等、共に支えていく関係を築けるよう努めている。		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・知人への電話・手紙などで交流している。面会時は、くつろいで頂ける環境を提供出来る様、努めている。馴染みの美容院へ出掛けたり、地域行事への参加、近隣のスーパーでの買い物等で、馴染みの人と交流出来るよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に仲介の立場で接している。出来るだけリビングに来て頂き、体操等に参加して頂いている。レクリエーションへの参加を通して互いの関係づくりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	写真・色紙を贈ったり、管理者・職員が、面会に行ったり電話等で経過を伺うなどして関係を断ち切らない取組を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の希望に添える様、会話の中から意向の把握に努めている。好きな事・趣味等の把握に努めている。また、介護相談員に思い・意向を引出して頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・ご利用者様との会話から、これまでの暮らしの把握に努め、その人らしい過ごし方の把握に努めている。馴染みの家具を配置する・好きな食べ物の把握等行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの対応・会話等、生活の中で、現状の把握に努めている。変化等が見られた場合は、カンファレンス・ユニット会議・申し送り等で情報交換等を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の担当者を決め、より細かい観察に努めている。アセスメントを行い、ご本人・ご家族の希望を取り入れ、ケアカンファレンスは、全員で行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録・生活チェック表、申し送り等で情報を共有し、実践・介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービス・有料老人ホームとの交流、他ユニットとの交流等、必要に応じて対応し支援の幅を広げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、保育園・幼稚園等との交流、悠悠まつりの開催等、地域との交流を図っている。また、地域のボランティアによる民謡の会を隔月で開催している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医療により適切な医療を受けられるよう支援している。状態を医師に報告・状況に応じご家族との連携を取っている。また、緊急時においても、速やかに対応して頂いている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師と連携を取り合い支援している。月2回、看護師の出勤があり、情報を伝えて相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、サマリーを作成し情報交換を行っている。また、退院指導等に同席させて頂く等、病院側から情報を提供して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についてのご家族・主治医・管理者で話し合い看取りを行う場合は、同意書を頂いている。主治医をリーダーに、ご家族との連携を密にし、管理者・看護師を中心にチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、研修を行っている。見やすい場所に「緊急手順表」が貼ってあり、緊急時に活用している。 定期的な訓練を行っている者もいるが、全ての職員が実践力を身に付けているには、至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	苑内での避難訓練を年2回、実施し、夜間を想定した訓練・風水害時の訓練を行っている。地域との協力体制を運営推進会議の際、話し合っている。近隣者へ避難訓練の参加を呼び掛けている。災害対策委員会を中心に、誘導方法を身に付け、防災意識を高めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけない様な声かけを心掛けているが、完全とは言えない。個々が認識する・職員間で注意し合う等、声掛けの工夫が必要と思われる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、ご本人の意思を引き出せるよう、自己決定できるよう努めているが、全ての職員が出来ているとは言えない、声掛けの工夫が必要と思われる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	健康管理・安全・安楽の確保に留意し、職員側の都合を優先するのではなく、ご利用者様のペースで生活出来る様、ユニット会議等で確認し合い、支援しているが、十分とは言えない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ、ご本人の希望に沿って、支援している。清潔保持が出来る様、声掛けの工夫をし、更衣の促し等を行っている。衣類を選んで着ている方もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いせずに声掛けを工夫し、ご利用者様と職員と一緒に準備・片付けを行っている。また、お礼の言葉を必ず掛け、やりがいに繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を表にまとめている。水分量の少ない方は、好みの飲み物を提供、夜間の水分補給等、一人ひとりの状態を把握、記録し、統一した支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守り・介助等、ご本人の力に応じた対応を行っている歯科医の訪問医療を受け、口腔管理を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を付け、一人ひとりの排泄能力・排泄パターンを把握している。必要に応じ、声掛け・誘導し、トイレで排泄出来る様、支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳・乳製品を取り入れている。個々の状況に応じて、オリゴ糖を使用する・水分を多めに促す、運動・散歩の働きかけを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日・入浴時間を決めず、出来るだけ、希望に応じて入浴が出来る様、配慮している。拒否のある方には無理に勧めず、声掛けの工夫・タイミングに合わせて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思に任せている。意思を表せない利用者には、様子観察をして、安心して眠れる様、必要に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカードックスにファイルし、一人一人の薬の目的や副作用を理解するよう努めている。薬剤師に随時相談・指導を受けられるようになっている。服薬チェック表を付け、薬の確認・服薬の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事への参加等、一人一人の力を活かした役割を持っている。行事・レクリエーション・音楽鑑賞・散歩・買い物等で気分転換を図っている。また、口腔体操等リードして下さる方、家庭菜園等積極的に取り組んでいる方がいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物・レクリエーション等で外へ出掛けられるよう支援に努めている。地域行事への参加等、ご家族会・運営推進会議・おたより等で協力を要請している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が必要とする物を聞き入れ一緒に買い物に行っている。お金は、職員が管理しているが、祭りの模擬店等、財布を持ち、ご本人が食べたい物を選び、お金を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人・友人・ご家族と電話をやり取りしたり、手紙のやり取りの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を行っている。温度・湿度は朝・夕、確認している。 リビングのテーブルの位置等、状況に応じて工夫をしている。ご利用者様にとって不快や混乱を招かない様、刺激がない様、配慮しているが十分ではない。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる場所、気の合った者同士が過ごせる場所等、ソファ・椅子・テーブル等で工夫している。外ベンチ等も活用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、ご本人の好みの家具・品物をご本人・ご家族と相談しながら配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力に応じた寝具（ベット・サイドレール設置・布団・椅子）家具等の設置を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 悠悠苑
平塚事業所

作成日 2018年 5月 29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	市派遣の介護相談員が毎月来訪し、利用者の話を聞いている。市の担当者も参加するグループホーム連絡会に参加しているが人材不足の為、十分に参加出来ていない。	1、介護相談員との連携を深める事が出来る。	介護相談員と連携を取り、情報を得て、利用者のニーズを探り、サービスの質の改善に繋がります。	1年
2	4	〃	2、介護保険制度の動向や人材確保等について、行政や他事業所と情報を共有する事が出来る。	グループホーム連絡会や研修に積極的に参加し、情報交換を行い、サービスの質の改善に繋がります。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。